

観光社会資本の事例

テーマ	平成の城下町づくり
【施設の状況写真】	
	
「平成の城下町」として和風の町並み形成が図られたシンボルロードである赤穂駅前大石神社線(お城通り)	シンボルロード沿線に整備されたポケットパーク。来訪者や地元の住民が憩える場所として整備。
【施設の利用写真】	
	
毎年12月14日に開催される赤穂義士祭を新たな歩道から楽しむ観光客。	景観形成地区指定により城下町風に整備された沿道の建物。
【観光資源としての利用状況】	
安心安全な歩行者空間が確保されたとともに、沿道の建物は城下町風に景観整備され、神社仏閣や城跡などの観光ポイントだけでなく、まちの中(加里屋地区)を歩いて楽しめる散策ルートとなり、赤穂市のシンボルロードとなりました。	
また、平成16年度からは、毎年12月14日に開催される赤穂義士祭のメインルート(以前は別ルート)となりました。	

テーマ	平成の城下町づくり
【社会資本の基礎データ】	
名称	赤穂駅前大石神社線
所在地	兵庫県赤穂市加里屋
事業名	まちづくり総合支援事業
事業主体	赤穂市
事業期間	平成12年度～平成16年度
【社会資本の役割・効果】	
<p>安全な歩行者空間の確保</p> <p>赤穂駅前大石神社線(お城通り)は、JR 赤穂駅と赤穂城跡公園等主要な観光施設を結ぶアクセス道路ですが、整備以前は、幅員が6m 前後しかなく、歩車が混在し、観光客等が安心して歩ける歩行空間がありませんでした。</p> <p>広幅員の歩道や交通広場の整備により、忠臣蔵のまちに相応しい雰囲気をかもし出す道路として生まれ変わり、観光客を含め、誰もが通り易く安心して移動できる歩行空間を確保しました。</p>	
【位置図】	
	
【関連ホームページ】 赤穂観光協会 http://www.ako-kankou.jp/	

